

株主メモ(株主のご案内)

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	
定時株主総会	毎年3月開催	
基準日	定時株主総会	毎年12月31日
	期末配当金	毎年12月31日
	中間配当金	中間配当を実施するときは6月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日	

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネット
 ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

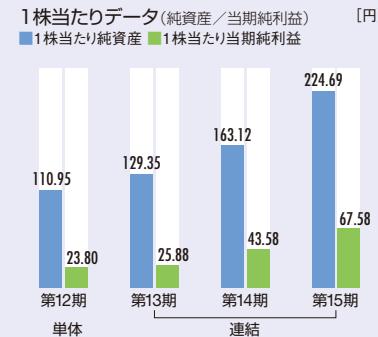
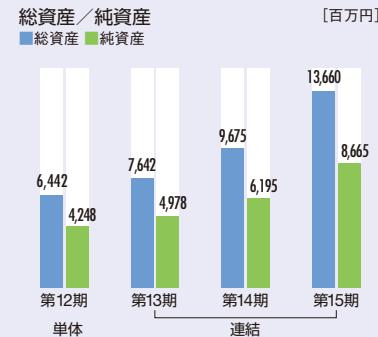
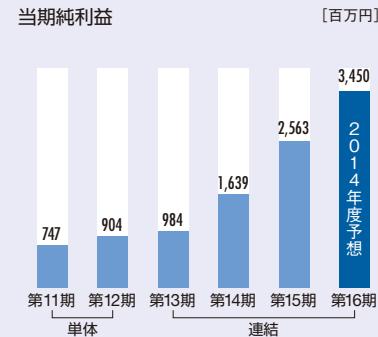
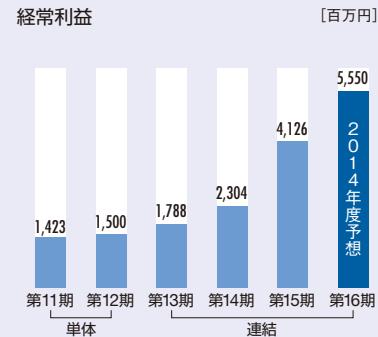
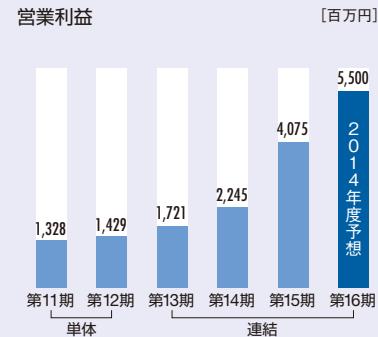
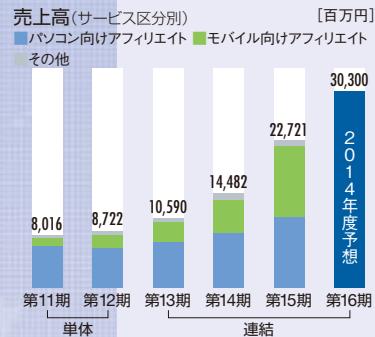
公告の方法 当社のホームページに掲載する < <http://www.fancs.com> >
 ただし、やむをえない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部(証券コード2461)

このたび東証第一部に市場変更いたしました。
今後もさらなる企業価値向上に精励してまいります。

2014年3月7日をもちまして、当社株式の上場市場を東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）から東京証券取引所市場第一部へ市場変更することとなりました。これもひとえに、株主様はじめステークホルダーの皆様のご支援、ご高配の賜物と心より感謝いたします。今後も株主の皆様のご期待に沿うべく、さらなる業容の拡大と企業価値の向上を目指し、役職員一丸となって一層精励してまいりますので、引き続きご支援、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

株式会社ファンコミュニケーションズ
役員・社員一同



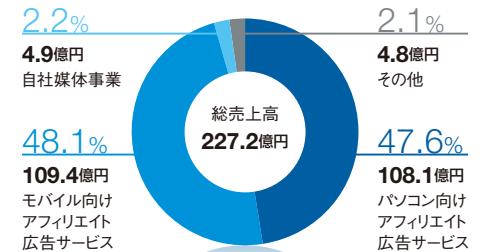
当期の業績 14期連続の増収、6期連続の増益を達成しました

当第15期（2013年12月期）は、成長を続けるインターネット広告の中でも特にスマートフォン広告市場が著しく拡大しました。当社はその動向を的確にとらえてスマートフォンへの対応を強化し、スマートフォン向け広告サービス「nend」を中心に大幅に収益を伸ばしました。期初の業績予想を上方修正して売り上げ、利益ともに過去最高となり、創業以来14期連続の増収、6期連続の増益を達成しました。（P5「トップインタビュー」ご参照）

第15期（2013年12月期）の業績



第15期 セグメント別売上高と構成比



資本政策 3回の株式分割を実施しました

株主・投資家の皆様に、より投資しやすい環境を整えるため、当期は計3回の株式分割を実施しました。投資単位当たりの金額を引き下げることで、当社株式の流動性の向上を図ります。

効力発生日	分割の方法
2013年1月1日	普通株式1株につき100株
2013年5月1日	普通株式1株につき2株
2013年10月1日	普通株式1株につき2株

配当政策 記念配当による増配を予定しています

株主の皆様のご支援に対する感謝の意を含め、当期の期末配当金において、1株当たり9円の普通配当に加えて、市場変更の記念として2.5円、また創業15周年の記念として2.5円の1株当たり5円となる記念配当を実施する予定です。

※ 当社は2014年4月1日を効力発生日とした1株につき2株の株式分割を行います。配当額および記念配当額は分割後の株式数を基準に算定しています。株式分割前の株式数を基準にした場合の配当金は、28円（普通配当18円、記念配当10円）であり、前期の予定より実質14円の増配となります。

※2013年1月1日付で普通株式1株につき100株、同5月1日付で普通株式1株につき2株、同10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たりデータを算定しています。

成長するインターネット広告市場

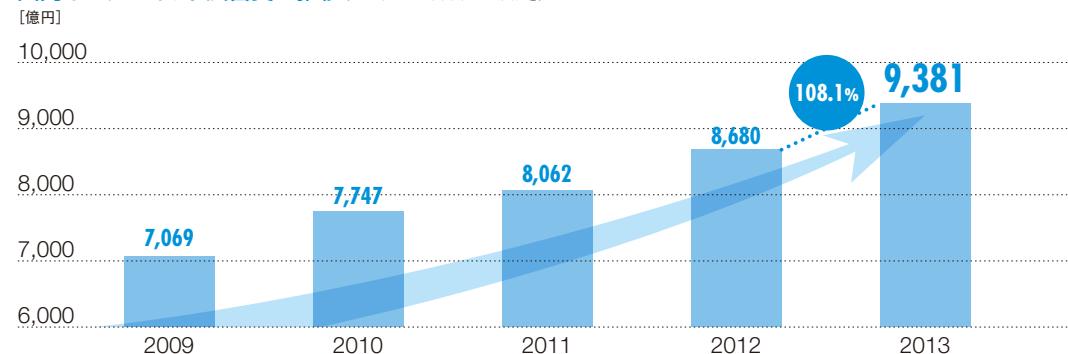
データで見る現在・未来

いまや広告市場をリードする存在のインターネット広告。その成長にはスマートフォンの普及が大きく貢献しています。当社のビジネス領域であるインターネット広告市場の現在・未来を、客観的なデータをもとに概観してみます。

伸び続けるインターネット広告 広告全体でのシェアを年々拡大

電通の調査によると、2013年の日本の総広告費は5兆9,762億円と、アベノミクス効果による景気回復の影響もあり前年比101.4%となりました。このうちインターネット広告費は9,381億円(同108.1%、制作費含)で、すでに新聞・雑誌・ラジオを抜いてテレビに次ぐ市場規模を誇っています。そのマスコミ4媒体は同100.1%と横ばいだったので、インターネット広告の伸び率がいかに高いかがわかります。消費行動や生活全体にインターネットが浸透し、企業のプロモーション活動に影響を与えていると言えるでしょう。

国内インターネット広告費の推移(電通「2013年日本の広告費」)



媒体別広告費の推移(電通「2013年日本の広告費」)



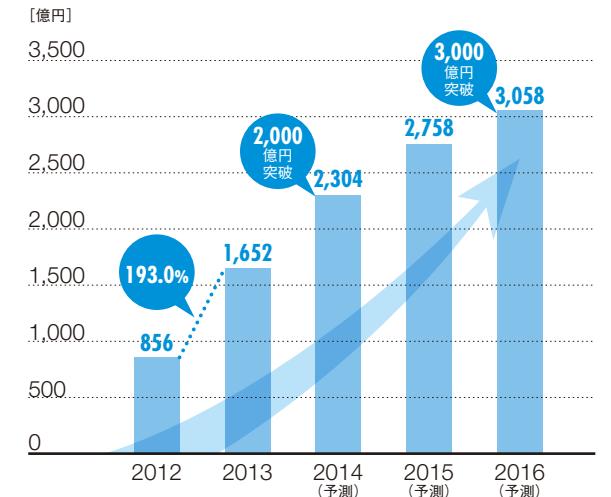
スマートフォン広告市場が急成長 2014年には2,000億円突破へ

中でも2013年は、スマートフォン広告市場が前年比193.0%と倍近く成長しました(CyberZ/シード・プランニング共同調査*より)。これは主に以下の3つの要因で消費活動をスマートフォンで行う機会が増えたことが背景にあります。

- ①通信事業者によるLTEなどの高速回線サービスの拡充
- ②動画、書籍、音楽、ゲーム等のスマートフォンでの利用拡大
- ③eコマース事業者によるスマートフォン向けサービス対応の加速

この結果、企業のスマートフォンユーザー向けのマーケティング活動がより強化され、スマートフォン広告需要のすそ野も大きく広がりました。同調査によれば、2014年は広告主によるWebプロモーションのスマートフォン対応が一層加速し、市場規模は2,000億円台に達し、さらに2016年には3,000億円を超えると予測しています。今後も引き続き成長市場として注力していく必要があります。

スマートフォン広告市場予測(CyberZ/シード・プランニング共同調査)



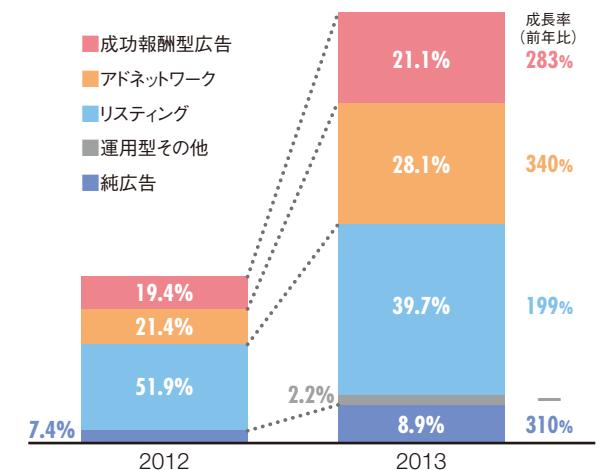
*スマートフォン広告マーケティング事業会社「CyberZ」と市場調査・コンサルティング会社「シード・プランニング」が共同で実施したスマートフォン広告市場動向調査

広告タイプ別でも当社領域が優位に 高い成長率とシェアを実現

右のグラフは、スマートフォン広告を5つのタイプに分け、その構成比と成長率を調べたものです(モバイル広告・マーケティング会社「D2C」の独自調査)。これを見ると、当社の事業領域である成功報酬型(「A8.net」「Moba8.net」「adacrops」が該当)とアドネットワーク(「nend」が該当)は、2012年から2013年にかけて大きく成長し、シェアを着実に上げていることがわかります。

今後も当社は、こうしたインターネット広告市場の動向や成長性を的確にとらえ、コア分野における強みを活かしながら、戦略的かつ機動的に事業を展開していきます。

スマートフォン広告タイプ別構成比と成長率(D2C独自調査より編集)



世界最大の成功報酬型 アドネットワーク企業グループを 目指します。

代表取締役社長 柳澤安慶



スマホの普及を追い風に当期も順調に業績を拡大できました

Q インターネット広告市場での貴社のポジションを教えてください。

インターネット広告は、商品・サービスの認知を目的としたブランディング広告と、送客や購買や会員登録など成果に応じて報酬を支払う成功報酬型広告に大きく分けられます。さらに成功報酬型広告は検索エンジンを活用したリスティング広告と複数のメディアを束ねることで効率よく広告を配信するアドネットワーク広告に分けることができますが、当社はこのアドネットワーク広告サービスのビジネスモデルで事業を拡大しています (P8図ご参照)。成功報酬型広告は広告主から費用対効果が見えやすいためネット広告市場の拡大を上回るスピードで成長しており、特にスマートフォン (以下スマホ) の普及を追い風に、スマホ向けの広告が当社の業績をけん引しております。

Q 当期の業績について説明してください。

当期は売上高227.2億円 (前期比56.9%)、経常利益41.2億円 (前期比79.1%)と、期首の予想を大きく上回る業績を達成することができました。主力サービスの「A8.net」「Moba8.net」「nend」すべてにおいて伸長しましたが、とりわけ「nend」の売上

高は前年比で約2.7倍と、業績に大きく寄与しました。

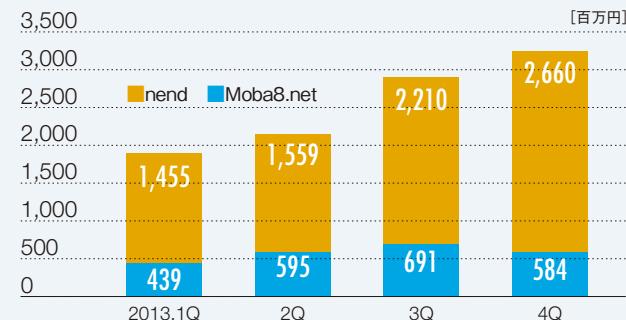
業績向上の要因は、スマホの普及とその広告市場の拡大を見込み、すべてのサービスでスマホ利用の広告主やメディアの数を増やした戦略にあります。これにより、スマホに特化した「nend」は当然最も高い伸び率ですが、パソコン向けの広告サービスでもスマホからの閲覧が成果として上がるようになり、「A8.net」の売上増加を支えました。モバイル向けの「Moba8.net」も前世代のフィーチャーフォン広告の取り扱いが減少する一方で、代替わりしたスマホの伸びが上回ったことで上昇基調に転じました。

それぞれのデバイスで国内最大のアドネットワークを目指します

Q 来期 (2014年12月期) の展開について教えてください。

現在、来期 (2014年12月期) は通期予想で売上高303億円、経常利益55.5億円、33.4%の増収、34.5%の増益と高い目標を掲げています。まずはこの予想をクリアするために全社一丸とりたいと思います。そして当期と同様にスマホ広告分野に注力し、しっかりと潜在市場を獲得していきたいと考えております。特にCPC型のスマホ向けアドネットワークサービスの「nend」が今期も業績をけん引していくと考えておりますので、新しい機能の追加や営業体制の強化、安定的なサービス運用を目指し、シェア拡大を

モバイル向け「nend」「Moba8.net」売上高の推移
(単体、四半期ベース)



「A8.net」成功報酬に占めるスマートフォン割合の推移
(単体、各年度の最高月と比較)



狙っていききたいと考えております。CPA型の「A8.net」「Moba8.net」も着実に利用広告主とメディア数を増やし成長させていききたいと思っております。

2014年12月期通期連結業績予想

(単位:百万円)	2013年通期実績	2014年通期予想	増減率(対前年比%)
売上高	22,721	30,300	33.4
営業利益	4,075	5,500	34.9
経常利益	4,126	5,550	34.5
純利益	2,563	3,450	34.6

それぞれのサービスでシェアを拡大するためのポイントを教えてください。

まず「A8.net」に関しては、引き続き広告主やメディア数を拡大しながら、スマホ対策をしっかりとやっていくということが基本戦略となります。スマホからのアクセスにしっかり対応したECを増やすと同時に、スマホならではの広告素材などにも取り組んでいく必要があると考えております。「Moba8.net」はゲーム会社などのダウンロード型広告主を増やすと同時に、モバイル中心のECサイトの利用促進を目指します。次に「nend」に関しては、当社の長年にわたる費用対効果を高める運用技術を生かしながら、従来のゲームを中心としたデジタルコンテンツを販売する広告主の利用拡大を図るとともに、大手企業の情報サービスやECなどの広告主のすそ野を拡大していくこととなります。

世界に挑戦——皆様の応援をお願いします

今後の事業戦略やビジョンについて教えてください。

まずは国内のアドネットワークサービスとして確固たるナンバーワンのポジションに立ちたいと考えて

おります。そのうえで、当社が掲げる「世界最大のアドネットワーク企業グループを目指す」というビジョンに向けて突き進みたいと思っております。そのためには、世界各地のグローバル型のアドネットワークサービス企業と競争していかなければなりません。

パソコン向け広告の領域にはGoogleのような巨大企業も存在しますが、現在当社が強みを発揮しはじめているモバイル(スマホ)分野ではまだ混沌としております。当社が日本という先進のモバイル環境で培った広告運用ノウハウは、世界でも通用すると考えており、海外から日本に参入する企業、国内から海外に進出する企業、海外のみで展開される企業の順番に、少しずつ海外の企業との接点を増やして、海外売上比率を高めていききたいと考えています。

具体的な海外展開はどのようになるのでしょうか。

前期に当社の海外展開のハブとなる子会社として株式会社アドジャポンを設立しております。また昨年末、「A8.net」「nend」を担当するそれぞれの事業部に海外担当チームを設置しており、今後、各サービスの英語化を皮切りに利用国の拡大を図ってまいります。また海外広告代理店やメディアとの接点も積極的に拡大を図っており、来期は海外売上比率を10%以上に高めることを目標としております。

M&Aなどで事業拡大していく考えはありますか。

チャンスがあれば積極的に投資をしていききたいと考えております。アドネットワークのビジネスモデルは、アドネットワークの規模と広告の在庫が一定のレベルに到達するまでは投資が必要で赤字になってしまうことが多いのですが、一定のレベルを超えると比較的安定します。ですから、一定の投資を終えて安定しており、当社と組むことでさらに成長が見込める企業があれば、国内外を問わずM&Aや事業投資を検討した

と思います。また、広告を掲載するメディアやアプリなどパブリッシャーサイドの企業にも、資本提携を含め投資を検討していききたいと考えております。

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は2014年3月7日付で、東京証券取引所のJASDAQ(スタンダード)から市場第一部へと市場変更することとなりました。と同時に、2014年は当社の創業15周年にあたります。そこで、株主の皆様のご支援に対する感謝の意を含め、来期の期末配当金において、1株当たり9円の普通配当に加えて、1株当たり5円

(市場変更の記念に2.5円、創業15周年の記念に2.5円)となる記念配当を実施する予定です。

また当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するために自己株式を取得・保有していますが、発行済株式総数の減少を通じて株主利益の増大を図るため、現在保有している自己株式のすべてを2014年3月31日に消却します。

今後も、ROEを意識した新規投資と株主還元のパランスをとりながら企業成長を目指していききたいと考えておりますので、株主の皆様には、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

当社の事業領域と主要サービス

当社のアドネットワークサービスは、消費者を広告主のWebサイトに誘導しそこでサービス申し込み、ソフトウェアのダウンロード、商品の購入など、広告主があらかじめ設定したアクションを達成することにより広告費用が発生するCPA(Cost per Action)型と、広告主のWebサイトに送客することで広告費用が発生するCPC(Cost per Click)型に分けることができます。

CPA型のアドネットワークサービスはアフィリエイト広告サービスとも呼ばれ、現在PC向けとして「A8.net」、スマホ向けとして「Moba8.net」とアプリのダウンロードのみに特化した「adcrops」(子会社のエイトクロップス運営)を提供しております。CPC型はスマホ向けに「nend」というサービスを提供しております。

	従来の広告(純広)の領域	成功報酬型広告の領域	
PC向け広告		A8.net	
モバイル向け広告		nend	Moba8.net adcrops
	表示数課金	クリック課金(CPC型)	アクション課金(CPA型)

財務諸表

貸借対照表 [千円]	第14期連結 2012年12月31日 現在	第15期連結 2013年12月31日 現在
資産の部		
流動資産	7,423,488	10,610,153 ◀1
固定資産	2,251,678	3,050,365 ◀2
資産合計	9,675,166	13,660,518
負債の部		
流動負債	3,337,861	4,847,201 ◀3
固定負債	141,418	147,341 ◀4
負債合計	3,479,280	4,994,543
純資産の部		
株主資本	6,124,644	8,586,504
その他の包括利益累計額	△20,471	623
新株予約権	88,117	74,258
少数株主持分	3,596	4,588
純資産合計	6,195,886	8,665,975 ◀5
負債純資産合計	9,675,166	13,660,518

- 流動資産**
主な増加要因は、現金及び預金1,803,319千円増、売掛金1,310,053千円増によります。
- 固定資産**
主な増加要因は、投資有価証券627,005千円増によります。
- 流動負債**
主な増加要因は、買掛金850,089千円増、未払法人税等555,575千円増によります。
- 固定負債**
増加要因は、長期預り保証金5,922千円増によります。
- 純資産**
主な増加要因は、利益剰余金2,291,947千円増によります。
- 営業活動によるキャッシュ・フロー**
収入増加の主な要因は、税金等調整前当期純利益4,133,459千円計上の一方、法人税等の支払額1,065,990千円によります。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー**
支出増加の主な要因は、投資有価証券の償還による収入2,040,000千円、投資有価証券の売却による収入397,737千円、投資有価証券の取得による支出3,006,615千円によります。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー**
支出減少の主な要因は、株式の発行による収入123,875千円、配当金の支払額238,358千円によります。

損益計算書 [千円]	第14期連結 2012年 1月 1日から 2012年12月31日まで	第15期連結 2013年 1月 1日から 2013年12月31日まで
売上高	14,482,220	22,721,246
売上原価	9,816,450	15,307,750
売上総利益	4,665,770	7,413,496
販売費及び一般管理費	2,420,169	3,337,647
営業利益	2,245,600	4,075,848
営業外収益	60,734	70,863
営業外費用	2,267	20,528
経常利益	2,304,067	4,126,183
特別利益	464,036	7,276
特別損失	111,992	-
税金等調整前当期純利益	2,656,111	4,133,459
法人税、住民税及び事業税	1,033,742	1,623,359
法人税等調整額	△17,497	△54,136
法人税等合計	1,016,244	1,569,223
少数株主利益	332	991
当期純利益	1,639,535	2,563,244

キャッシュ・フロー計算書 [千円]	第14期連結 2012年 1月 1日から 2012年12月31日まで	第15期連結 2013年 1月 1日から 2013年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,561,949	2,774,955 ◀6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,536	△857,056 ◀7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△439,559	△114,578 ◀8
現金及び現金同等物の期首残高	2,748,772	3,817,626
現金及び現金同等物の期末残高	3,817,626	5,620,946

会社情報

2013年12月31日現在

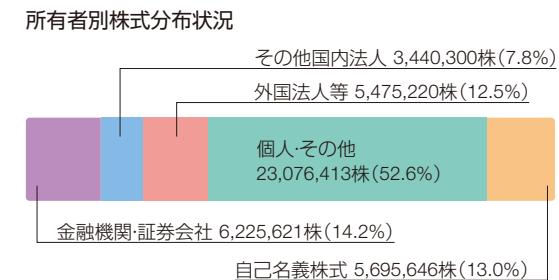
会社概要	
商号	株式会社ファンコミュニケーションズ
本社所在地	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-1-8 青山ダイヤモンドビル
設立	1999年10月1日
資本金	10億4,538万円
従業員数	単体240名(アルバイト、派遣社員含む) グループ合計290名(アルバイト、派遣社員含む)
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

株式情報

2013年12月31日現在

株式の状況	
発行可能株式総数	120,000,000株
発行済み株式総数	43,913,200株
株主数	4,269名

株式の分布



役員	
代表取締役社長	柳澤 安慶 (やなぎさわ やすよし)
取締役副社長	松本 洋志 (まつもと ひろし)
取締役	佐藤 吉勝 (さとう よしかつ)
取締役	広瀬 計 (ひろせ はかる)
取締役	堂下 裕章 (どうした ひろあき)
常勤監査役	柳澤 信美 (やなぎさわ のぶよし)
監査役	柿本 謙二 (かきもと けんじ)
監査役	出澤 秀二 (いでさわ しゅうじ)

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	株数百分率(%)
柳澤 安慶	14,776,000	33.6
(株)ファンコミュニケーションズ	5,695,646	13.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,487,400	5.7
楽天(株)	2,311,600	5.3
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,397,800	3.2
松本 洋志	1,267,400	2.9
アール・シー・ワイ・ブラザーズ(株)	1,004,000	2.3
BNYM SA/NV FOR BNYM CLIENT ACCOUNT MPCs JAPAN	880,544	2.0
杉山 紳一郎	706,000	1.6
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	570,000	1.3